

重度心身障害者医療費助成制度について

医療連携・患者支援センター 山下 祐理子

千葉県では重度心身障害者(児)の健康・福祉の増進と医療費負担の軽減を図るため、健康保険法、国民健康保険法等に基づく保険による医療給付の自己負担額を助成してきました。実施主体は市町村で、市町村ごとに条例等で助成方法等を定め、これに対し県は補助金を交付しています。これまでの医療費の助成方法は、医療機関の窓口で医療費を支払った後、障害福祉課等の窓口に提示し、一定の自己負担金を支払うことで精算される方式となっていました。しかし、平成27年8月1日から始まった新制度では、一定の自己負担金のみを支払う「現物給付」方式に変更になりました。**助成内容はお住まいの市町村によって異なりますので、詳しくはお住まいの市町村窓口にお問い合わせ下さい。**

【平成27年8月1日以降の重度心身障害者医療費助成制度の変更点】

	現行制度	新制度(平成27年8月から)
対象者	身体障害者手帳1.2級及び療育手帳A2以上お持ちの方	
年齢制限	なし	65歳以上の方は対象外 (平成27年7月31日までに助成対象となる手帳が交付されている場合は対象)
自己負担	なし	通院1回300円、入院1日300円 (市民税所得割非課税世帯は0円)
所得制限	市民税所得割額235,000円以上は対象外	
受給方法	償還払い方式	現物給付方式

重度心身障害者医療費制度では、他の法令等の規定により適用される公費負担制度がある場合、その公費負担制度が優先されますのでご注意下さい。ここ何年かのうちに障害福祉サービスはめまぐるしく変化しています。ご不明な点やお知りになりたいこと等ございましたら当院の医療連携・患者支援センターにご相談下さい。

外来受診のご案内

- 開院時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:00
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日・祝日・第3土曜／創立記念日(6月10日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ず持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

編集後記

12月も慌ただしく過ぎ去り、新年を迎えました。皆様はいかがお過ごでしょうか。我が家ではおみくじを引くことが恒例となっています。私は過去2年連続で中吉を引き、家族に笑われ、なんとも言えない気持ちでいます。このような行事で家族や仲間と一緒に盛り上がるのもいいのでしょうか。皆様にこの1年、大吉が訪れる事を祈っています。



編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)
発行月：2016年1月【年4回(1・4・7・10月)発行】
URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

SAKURAdayori



東邦大学医療センター
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます



病院長 長尾 建樹

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。無事に新しい年を迎えることができたことをお喜び申し上げると同時に、日頃からの東邦大学医療センター佐倉病院に対するご厚情に感謝を申し上げます。大きな医療変革の流れの中にあって、すべての医療機関が非常に厳しい状況に直面しつつありますが、教職員一同「患者さんのために」という基本に立ち返り、地道に医療に取り組んで参りたいと存じますので本年も何卒よろしくお願いいたします。

病院長就任以来半年が過ぎました。その間、7月には日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し認定を受けることができ、11月にはがん診療連携拠点病院の指定を受けるための整備が完了し、千葉県からの推薦を受け厚生労働省での審査が始まっております。

また、地域災害拠点病院としての機能充実を図るために、緊急時の備蓄食糧や電気水道などのライフラインを確保する体制を佐倉市と連携のもと整備を行い、被災者収容のための施設設備品の拡充を続けています。災害現場へ緊急出動できる医療チーム(DMAT)も昨年中に2隊が認定を受け正式に発足しており、9月1日に行われた首都圏直下型地震に対するDMATを中心とした広域訓練や、成田空港の飛行機事故対策訓練等に積極的に参加しています。いずれも加藤良二前病院長時代に構想し各部署が協力して、教職員一丸となって病院の質を向上させるために努力を続けてまいりました。

佐倉病院のフィールドは地域であることを常に念頭に置き、診療連携にも力を注いでおります。現在、外来における近隣医療機関からの紹介および逆紹介率は50%を

超えています。厚生労働省で策定された地域医療構想により機能分化と連携の推進が我々に課されている大きな命題であり、より一層、地域の皆様と強い信頼関係を築き、医療の需要と供給の適正なバランスを整えた地域医療提供体制を構築するために病診連携、病病連携の強化を行ってまいります。当院では、連携の窓口として外来コンシェルジュと医療連携・患者支援センターを設置しておりますが、これまで以上に皆様方と紹介患者事前予約制をはじめとしたスムーズな紹介や逆紹介を推進し、外来待ち時間短縮やご紹介に関するお手間を軽減するだけではなく、広く当院に対するご要望、ご叱責を真摯に受け止め迅速に対応できるように地域連携要員を増員しましたので、積極的にご活用いただければ幸いです。

がん診療においても、緩和ケア連部署の増員や化学療法室の拡充を行い、昨年から稼働を開始した放射線治療部門を含め総合的ながん診療体制が提供できるようになりました。また、診療各科においても引き続き専門性の高い医療を提供できるよう拡充を図ってまいります。

東邦大学医療センター佐倉病院教職員は、患者さんに「かかって本当によかった」と思っていただける病院、「働いて本当によかった」と思える病院を目指して努力を惜しまず本年も邁進いたしますので、更なるご理解、ご支援をお願い申し上げます。最後になりましたが、この新しい1年が皆様にとりましてより佳き年になるよう心より祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

『市民公開講座：がんと診断されてもあなたしく生活するためのヒント』

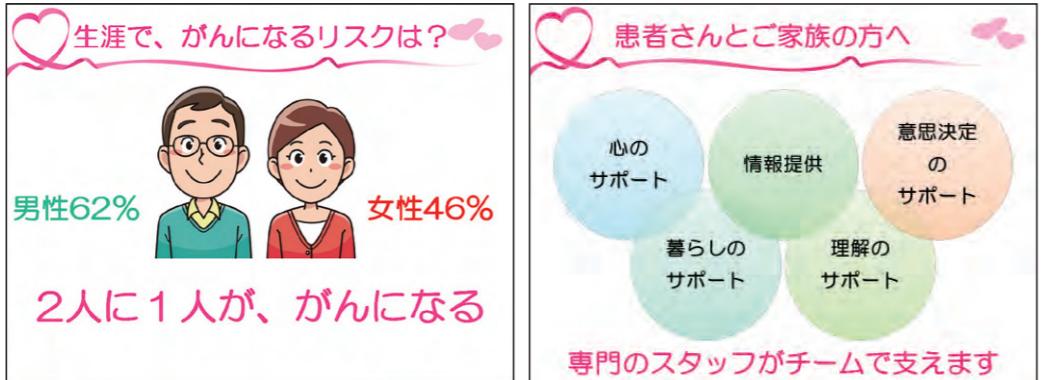
がん性疼痛看護認定看護師 塚本 佳子

当院には12領域15名の専門知識をもった認定看護師が在籍しています。その中で、今回ががん看護領域の認定看護師3名が公開講座を担当させていただきました。

私たちがテーマに込めた思いは、「たとえがんと診断されても、自分らしさを失わずに日々の生活を送ってほしい」というものでした。そこで、「がんになつたら自分では何もできない」というのではなく、医療者に自分の思いを伝え主体的に治療方針の決定に参加し、さらに、自分の体と向き合うことの大切さやそのためのヒントとなることを一つでも多くお伝えしたいと思い当日のプログラムを組みました。

また、この機会に自身の健康を考えるきっかけにしていただきたいと考え、がん検診の重要性についても触れ、会場に地域別のがん検診の案内用紙を準備致しました。当日の講座内容を少しだけご紹介します。

まずは乳がん看護認定看護師が、がん検診の重要性や実際にがんと診断された際の医療者との向き合い方、さらに自分らしい治療を選択していくためのポイントをお伝えしました。続いて、がん化学療法看護認定看護師より、当院での抗がん剤治療の流れを説明させていただき、特に副作用対策については、患者さん自身やご家族が自宅で



2016年 市民公開講座のお知らせ（入場無料・申込不要・200席）

開催予定日	講演予定テーマ	担当
1月23日（土）	「手術の必要な鼻と耳の病気」	〈耳鼻咽喉科〉
2月27日（土）	「身近な救急医療」	〈看護部〉
3月26日（土）	〈地域で考えるケアと治療〉 「歩行障害／パーキンソン病」	神経内科・薬剤部・脳神経外科 リハビリテーション部・ソーシャルワーカー・看護部
4月2日（土）	「知っておきたい眼の病気」	〈眼科〉
5月14日（土）	「お父さんの健康を考えよう！」 ～前立腺の病気を知ろう～前立腺肥大症・前立腺がん～	〈泌尿器科〉

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。

いずれの講座も14時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

病院職員によるミニコンサート開催のお知らせ

2016年1月30日(土)15時より正面ロビーにて

演奏：トランペット、弦楽アンサンブル、ハンドベル等クラシックから唱歌、童謡まで幅広く演奏します。



～安全な医療への取り組み～



医療安全管理室
室長 鈴木 啓悦

医療安全への社会的な関心が高まつたのは、1999年、横浜市立大学附属病院で起きた患者取り違え事故がきっかけでした。それから、国主導による医療安全対策が急速に進んでいます。しかし、ここ最近医療事故や薬害訴訟の報道を耳にすることも多く、高度医療が進むにつれ新たな問題もおこり、いま、まさに医療現場ではかつてない医療安全の取り組みが求められています。

当院では、2000年に安全管理委員会を設置、2004年には医療安全管理室を設置し、専従の医療安全管理者が配置され、院内の医療安全管理体制を監視、評価、サポートしながら組織横断的に活動しています。医療者も人間です。「人は誰でも間違える」という危機意識を常に持ち、患者さんの安全を第一に考え、医療者の個人レベルの事故防止対策とともに、組織として二重三重の防止システムを構築しています。誰が行ても、事故が起きない予防システム、あるいは事故が発生したとしても途中で回避されるシステムを構築することにより、私たち医療者も安心して医療を行うことができるのです。

そのためにも、医療現場でヒヤリとしたこと、ハットしたこ



感染対策室
室長 長島 誠

医療関連感染について
医療関連感染とは、医療に関連して発生する様々な感染症のことを行います。「院内感染」という言葉が広く知られているとおり、医療の現場では入院患者さんをはじめ抵抗力の減弱した方が多く、感染症が発生するリスクが高いといえます。

病院全体での感染対策の取り組み

医療関連感染を防ぐために、感染対策室が設けられており、感染防止に関するさまざまな検討がなされています。感染に関する調査、分析、指導などを行っています。感染対策室のメンバーは、感染対策チーム(Infection Control Team; ICT)として活動しています。感染対策室の活動を担うICTには、医師(ICD)、看護師(ICN)、薬剤師(BCPIC)、臨床微生物検査技師(ICMT)ならびに事務員など多職種の職員で構成しており、さまざまな視点から対応しています。



との事例を集めて分析し対策を検討して、業務手順の見直しやシステム改善を行い、医療事故防止に努めています。毎月行っている全職員向けの医療安全研修会も、168回を迎え、医療安全に関する意識の高さが評価できます。

医療の質・安全を向上させるために、患者さんや市民の方々と医療者による共同行動も重要です。まずは、医療を受ける患者さんは医療チームの一員であり、患者さんにも行っていただく医療安全の取り組みです。たとえば、患者確認が必要な全ての場面において、患者さん本人(あるいは患者家族)にフルネームを名乗ってもらい、患者誤認を防止します。手術の時にもお名前、そしてどこの部位の手術をするのか、医療者と確認し合います。また、入院中は不慣れな環境や病状の変化により、筋力や注意力が低下し、思いがけず転んでしまうことがあります。いつ、どのような危険があり、これを避けるために患者さん・ご家族にできることは何かを理解していただき実践していただくことが重要です。どのように患者さんご自身から医療安全に参加してください。それが医療現場の安全性を高めることに繋がります。さらに、病院ボランティアの活動もその一つです。現在も地域の病院として盛り上げるお手伝いをしたいなどの理由から「自分でできる時間にできること」を、患者さんのためにおこなっています。そして、患者さん側からの思いを表出し、病院へ意見を反映しています。このように、これからも患者さんや地域の方々とともに医療安全を向上させる活動を目指して、取り組んでいきたいと考えております。

病院で問題になる感染症はたくさんありますが、冬になって問題となる感染症といえばインフルエンザやノロウイルスによる胃腸炎です。インフルエンザ予防の基本は手洗いとマスクの着用です。マスクを着用していても、鼻が出ていては効果がありません。また、インフルエンザのウイルスは環境表面での生存期間は2~8時間といわれています。手指を介して接触感染することもあるため、手洗いは重要です。ノロウイルス等による感染性胃腸炎予防のためにも、やはり手洗いが一番重要です。外出から帰った際や、食事を作る前、トイレの後などにはしっかりと手を洗いましょう。

医療関連感染を防止するためには、われわれ職員だけでなく、患者の皆さん、病院への訪問者の皆さんとの御理解・御協力も必要です。日頃からの手洗い、せきやクシャミが出るときのマスク着用、風邪などの症状がある方の訪問自粛など、ぜひ御協力をお願いいたします。

地域連携について

当院では、感染防止対策加算1および感染防止対策地域連携加算を算定しております。東邦大学医療センター大森病院、大橋病院、さらに千葉市、佐倉印旛市郡の4つの医療機関と連携し、定期的に相互ラウンドやカンファレンスを実施し、相互に感染防止に関する評価を行っています。